

ほろかカードかい

# ほろかカード会 (東城町商工会)

広島県庄原市東城町

## キャッシュレス決済の普及で 地域内での経済循環モデルを実現



### 取組の背景

### 生産性を向上させて 安定した店舗経営へ

会員事業者の大多数は、手書きの帳簿や、現金収支の記帳といったアナログによる管理を実施していた。また、情報・データに基づいた消費者のニーズを調べ、それに基づく経営計画を立てることの重要性が浸透しておらず、昔ながらの経営が継続されていた。そのため、多様化する消費者のニーズに対応できていない状況であった。また決済手段についても、会員事業者はこれまで現金決済のみを決済手段と捉えており、クレジットカード払いを導入している店舗も数店舗に限られていた。このため、釣り銭等に使用する現金の両替やレジでの精算に多くの時間を費やしていた。

### 取組の内容

### キャッシュレス決済を 地域に浸透させる取組

2019年4月より、ICカード「ほろか」によるキャッシュレス決済を導入した。名前は東城町に戦国時代から伝わる武具「母衣(ほろ)」に由来している。

決済代行企業を通さず、当会自らキャッシュレス決済事業者となり、また中小企業庁からの補助金も活用し、加盟店の支払手数料を1.0%と全国最低水準に抑えることで、会員事業者の負担を最小限に軽減させた。また、商工会ならではの取組として、買い物のみならず、地域の行事やボランティアへの参加もポイント付与の対象とした。そして東城町人口の90%超にあたる、7,000枚のカード(地元住民・小学生・観光客用)を発行し、地域への幅広い普及に取り組んだ。

ほろかカード会では、加盟店会議を定期的を実施し、毎月の加盟店全体の売上額や、対前年同月比、客単価の推移、キャッシュレス決済比率の推移等のデータを共有している。これらデータの推移から、増減の要因等を

そのため会員事業者へ経営指導をしていくなかで、安定した経営のためには、生産性を向上させることが必要と考えるようになった。加えて、地元の消費者は、都市部や大型店で買い物をするようになっており、いかに商店街に来街し買い物してもらうか、活性化のための対策が求められていた。

一方、東城町は、広島県を代表する景勝地「帝釈峡」をはじめ観光資源に恵まれており、観光客を呼び込むことで、商店街の活性化につながることを期待できる。

そのため当会では、会員事業主の生産性向上と、買い物客にとっての利便性を高め、利用しやすい店舗をつくるという観点から、現金決済からキャッシュレス決済への転換に取り組むようになった。

加盟店同士で相互評価するとともに、それを踏まえ、一定の期間の売上に応じたポイントアップや、マイナポイント事業への参画等の施策を次々と打ち出している。

さらに、「キャッシュレス決済が地元商店街での購買増加に寄与する」との仮説のもと、2020年10月より、地元加盟店への移動履歴とキャッシュレス決済による購買履歴のデータを両方収集する目的で、外部の交通工学専門家と連携し、GPS付きの電動アシスト自転車を高齢者へ貸し出す事業を開始した。今後、加盟店会議にその結果を共有し、さらなる改善策に繋げる。



マスコットキャラクター「ほろんちゃん」が描かれた「ほろかカード」

## 取組の成果

生産性が向上し、  
皆が買い物しやすい店舗へ

先述の取組により、高齢者が多い地域にもかかわらず東城町におけるキャッシュレス決済の利用率は50%を超え、加盟店では決済時間の短縮、両替金縮減、収支の見える化が実現し、地域経済循環の好事例として「小規模企業白書2020」やマスコミにも取りあげられた。さらに、2020年4月から11月の売上は、対前年同月比125.5%と伸張した。キャッシュレス決済の利便性のほか、コロナ禍のもと、大型店等に流出していた地

元消費者の購買行動が、東城町内の商店街に還流しつつある。



「ほろかカード」加盟店

## 実施体制

ほろかカード会は商工会の会員のうち、加盟店の経営者により組織・運営され、毎月の会議を通じて、加盟店相互の情報を交換している。同会では前述の通り、加盟店での税込売上額の1.0%を決済手数料として毎月徴収し、それを原資に消費者へのポイン

ト還元(0.5%)やカードの利用を促進する広告費用等の活動に充てている。

それ以外に、庄原市の教育委員会や地元小学校・社会福祉協議会等と連携し、ほろかカードの利用履歴をもとにした児童・高齢者の見守り機能も提供している。また前述のとおり、外部の交通工学専門家と連携し、高齢者の活動状況とほろかカードの利用状況のクロス分析を実施している。

## キーパーソンからのコメント

## データ活用による地域全体のDX・cityへのいざない

事業の発端は、町内の2つのポイントカードをリニューアルし、新たな地域カードを導入することでした。そのことがきっかけとなり、キャッシュレスという手法に着眼しました。導入に際して先進地への視察や研究を進める中で、決済機能の他にもデジタルデータを利活用することで「高齢者や児童見守り機能」、「購買データの利活用」が実現可能であることがわかりました。

さらに、アプリの開発により地域の観光や特産品等の情報を地域外へも発信しています。地域循環型ICカード「ほろか」の導入は、加盟する事業者の活動をデジタル化するうえでの第1歩となりました。今後は、商店街のみならず地域全体をデジタル化していく新たな街づくりへ挑戦していきたいと考えています。



東城町商工会 会長 後藤茂行

## 商店街の概要

東城町商工会は、広島県庄原市の東城地域(以下「東城町」)を管轄する商工団体である。東城町中心部の商店街は、大型店出店や道路整備により、1998年頃から町外へ買物客の流出、後継者不足により空き店舗が目立ちはじめ、2006年には商店街振興組合が解散に至った。このようななか、当会は商店街組織を代行する形で、「町内店舗で共通利用できるポイントカード」の検討を開始し、ほろかカード会を設立した。そして2019年4月には自らキャッシュレス決済事業者となり、地域循環型の電子マネー機能付きポイントカード「ほろかカード」の運用を開始している。

所在地 広島県庄原市東城町  
人口 約3万4千人(庄原市)  
電話 08477-2-0525  
FAX 08477-2-3129

URL <https://connectojo.net/>  
会員数 56人  
店舗数 64店舗(建設業2、製造業4、卸売業1、小売業21、飲食・宿泊業5、サービス業23、その他8)

商店街の類型 複合型  
主な客層 主婦、高齢者  
／60歳代、50歳代